

自治会云だより

平成七年三月二十六日  
西新井町自治会広報部

伸びゆく西新井町

二十八年六月に、足利市に合併した当時の、西新井町の戸数は八十戸余りでした。しかるに、真っ先に進出したアキレス工場は、国の発展と共に、みるみる内に大会社となりました。お陰様にて我が西新井町も今では、三百八十戸と約五倍の戸数となりました。昭和十五年にはそれまでの公民館が手狭となり自治会館を建てたお陰で、今では月に四・五日程の休館日で各種団体の会議に練習、修養に盛んです。自治会事業も納涼祭を始め数々の立派な成績を挙げ、中でも市民体育祭山辺大会においては、過去五十年の大会の歴史の中に一度も記録されなかった三連覇の偉業は大会の歴史に光り輝く大記録として残り、自治会役員と体育関係スタッフと住民が一体となって成し得たお陰と感謝しております。

なお、待望の点滅式の信号機が四ツ辻に設置され、通学路には白線が引かれ児童の安全を守っております。また、石上用排水工事も大事業ですが、平成八年度予算で完了の予定です。更に国道五十号線の南側（浄水場東側）に住宅団地が出来ますと、いよいよ西新井町もますます発展の期待が本格的となりましょう。

自治会長 須永三郎

文化祭について

平成六年度秋の文化祭開催については、前年度以上に町内各団体の皆様方にご協力を戴き盛大に挙行できましたこと、茲に厚く御礼申し上げます。会場では、例年同様各部門よりの作品が豊富に展示され、恒例のつるし鍋による風味鑑賞もいただき好評を博しました。今年度は、新たに八木節愛好会の方の参加によりお囃し八木節踊り等おりからの小雨にもめげず活気あるスタートとなりました。お茶の会も今年度は和室で渡辺先生のご指導のもと、稽古を積み重ねた茶道部員によお点前が披露され、折から斉藤県議、渋沢市議、山辺公民館長夫妻もお見えになり、その他多勢の来場者の方々にお茶を差し上げることができました。傍らでは、琴西会 新発足の琴新会の会員の方々による、大正琴が演奏され、終日和やかな雰囲気となりました。文化祭等グループ活動を通じて、町内皆様方の益々の親睦が図られますことを熱望する次第であります。

文化部長 須永恭正



育成会云



西新井町青少年育成会の日頃の活動に對しまして、町内の皆様方の特段のご配慮と、ご協力を賜りましてここに厚く御礼申し上げます。恒例の廃品回収も、好天に恵まれ三度とも十分な成果を上げることができました。また石上神社の夏祭りには、大勢の子供たちが揃いのハッピーでお神輿を担ぐ様は見ているだけで体が跳ねてきそうです。年々子供の体位が向上しているために大人のハッピーを拝借して参加した子もいました。

夏休みのキャンプは、一番楽しいはずの、キャンプ・ファイヤーが雨のため出来なく成ってしまい大変残念でした。納涼祭には、大勢の少女の八木節おどりは、町内のみなさんから大きな拍手を浴び練習の成果が実りました。売店ではお父さんや、お母さんが、焼きそばや、おでん、ラムネ、かき氷に大奮闘、ボーリング大会では歓声が飛びかい楽しい汗をかき、もちつき大会では、ふかしたてのもち米をおいしそうにほおばり、大福餅は、大きいのが、破れそうなの、いろいろの大福が、出来ました。

育成会長 松本利夫

諸悪莫作  
衆善奉行  
A.S.S生

以前新潟へ旅した時に、大きな旧家の床に掛けて在った幅であった。一休禪師の筆になるものであった。悪い事はするな、善いことはせよ、と言うことだそうだが、解りきった事だと言うだろう。原典は、お釈迦様の弟子の阿難尊者の偈だが白楽天と鳥窠和尚の故事の一節でもあり白楽天が「馬鹿にするな、そんなことは子供でも知ってるわい」と憤慨したそう。和尚答えて曰く「わしは、八十になってもまだ出来ないよ」白楽天願って野宿和尚の弟子にしてもらったそうである。

小生かなしい哉、善悪の区別さえさだかでない。そんな私だがこの一年代議員を仰せつかったのだから自分達の隣組の全員の思いを、その責任を一身に受けているのだと言う緊張感だけは持っているつもりでいた。近所の人達それは私にとつて大切な人達で在る。六十億の数の中でほんのささやかな数の気心の知れた人達だ。

